

希望

大阪インターナショナルチャーチ

アダム・キング牧師

2014/08/31

1 ペテロ 1:3-9

おはようございます。今ここにいらっしゃる皆さんが、今日のメッセージをとおしてさらに神に近づくことをお祈りします。

1927年、米国潜水艦 S-4 が駆逐艦に衝突されて沈没し、乗組員全員が艦内に閉じ込められました。マサチューセッツ州沖の事故現場には、多くの船が駆け付けました。沈没した潜水艦の内部の様子はまったくわかりませんが、徐々に酸素が減っていく中で乗組員たちは必死に生きようとしました。ダイバーが潜水艦の艦体にヘルメット越しに耳を当てると、トントンという音が聞こえました。艦内の誰かが点と線からなるモールス信号を使って、外部に質問を送っていたのです。その質問とは、「望みはあるか」でした。

「望みはあるか。」これは重大な質問です。今日ここにいらっしゃる皆さんは、私と同じように、希望はあると思われるでしょう。ほとんどの人が、なんらかの希望を持っていると思います。では実生活で、希望はどのように表現されているのでしょうか。日常生活でどのように希望を伝えるのでしょうか。

この答えを求めて、私は少し調べてみました。その中で、ジョン・パイパー師の書物を読みました。師は、希望を伝える方法が少なくとも3つあると言います。それは次のような方法です。

1. 希望とは、何か良いものを将来に望む願望である。
2. 希望とは、私たちが望む将来の良いものである。
3. 希望は、願いが叶うと思える根拠になる。

では、これらの言葉を日常生活にあてはめるとどうなるか例を挙げてみましょう。

1. 希望とは、何か良いものを将来に望む願望である。家族旅行でディズニーランドに行く計画を立てたとしましょう。子どもたちは大喜びで、荷物も用意してホテルも予約してあります。そして、奥さんにこう言います。「雨が降らなければいいけどね。」ディズニーランドへの旅行とよいお天気が、何か良いものを望む願望ということになります。
2. 希望とは、私たちが望む将来の良いものである。友人を夕食に招いて、とても良い時間を過ごしたとします。楽しかったので、友人にこう言います。「またいつか来られるといいね。」夕食をともにしたことが良かったので、また近い将来そうなることを望むということです。
3. 希望は、願いが叶うと思える根拠になる。自分のファンの野球チームがワールドシリーズまたは日本シリーズに勝ち進んだとします。最終戦9回裏、応援しているチームは1点差で負けており、現在ツアーアウト満塁です。次の打者はチームで一番の打率の持ち主で、この打者が勝利への最後の望みです。チームもファンも彼がヒットを打って優勝することを願います。あなたは、応援しているチームの優勝を望みます。その願いが叶うと思える根拠が、この打者なのです。

ここに挙げたのは、人間的な希望です。これらには共通点があることにお気づきでしょうか。それは、不確かであるという点です。人間的な希望の根底には、不確かさがあります。ディズニー

ランドに行くときにお天気だという保証はありません。友人と必ず食事をできるとは限りません。打率の良い打者だからと言って、ヒットを打つとは限りません。

では、聖書の教える希望と比べてみましょう。ジョン・パイパー師は、聖書の教える希望をこのように説明しました。「聖書の教える希望とは、何か良いものを将来に望み、確信をもって期待することである。聖書の教える希望は、将来に良いものを望むだけでなく、そうなると予測することである。予測するだけでなく、確信することである。」

これから、ペテロ第一 **1:3-9** を読んで、聖書の教える希望について **3** つの特徴を学んでいきたいと思えます。今からその個所を読みますので、スクリーンかご自分の聖書をご覧ください。

1:3 私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちが新しく生まれさせて、生ける望みを持つようにしてくださいました。**1:4** また、朽ちることも汚れることも、消えて行くこともない資産を受け継ぐようにしてくださいました。これはあなたがたのために、天にたくわえられているのです。**1:5** あなたがたは、信仰により、神の御力によって守られており、終わりのときに現されるように用意されている救いをいただくのです。**1:6** そういうわけで、あなたがたは大いに喜んでいます。いまは、しばらくの間、さまざまの試練の中で、悲しまなければならないのですが、**1:7** あなたがたの信仰の試練は、火で精錬されつつなお朽ちて行く金よりも尊く、イエス・キリストの現れるときに称賛と光栄と栄誉になることがわかります。**1:8** あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、いま見てはいないけれども信じており、ことばに尽くすことのできない、栄えに満ちた喜びにおどっています。**1:9** これは、信仰の結果である、たましいの救いを得ているからです。

聖書の教える希望でひとつめの特徴はこれです。

1. 聖書の教える希望は、人生を変える。

私たちの人生は、希望をとおして変えられます。人生を変える希望は、人間的な希望とは違います。人を変える希望は、神ご自身から与えられます。残念ながら、人は間違っただけに希望を置くことがあります。配偶者や医師などの人間、または知性や職業に希望を持つ場合もあります。野球選手に希望を託す人もいます。そのようなものに希望を託しても、希望が叶わずがっかりすることがあります。失望させられることがあるのです。野球選手が三振することもあれば、あなたが失業する可能性や医師が病気の治療法を見つけれない場合もあります。これまでの人生で私が学んだのは、人や物にはがっかりさせられても、神に失望させられることはないということです。神に失敗はありません。神のみことばは真実で、神の約束は確実です。神が希望の約束を与えてくださるなら、その約束を確信してよいのです。

人生を変えるような希望はどこからやってくるのでしょうか。それは、神の大きなあわれみからやってきます。今日の個所の **3** 節はこう語ります。「神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちが新しく生まれさせて、生ける望みを持つようにしてくださいました。」なぜ私たちは「新しく生まれ」なければならないのでしょうか。ローマ **3:23** にはこうあります。「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、」聖書は、私たち人間が皆罪人であり、人生を変える生ける望みを得る権利がないことを明確に語ります。罪は私たちを神から遠ざけますが、神は大きなあわれみをもって、清められる道、すなわち有罪の人が無罪になる道を備えてくださったのです。神は御子をこの地上に遣わし、私たちの間に住まわされました。創造主が被造物となってくくださったのです。

イエスはご自身の栄光を自ら捨て、幼子として生まれ、死ぬために生きてくださいました。それは、私たちがいつの日か、無罪と認められるためです。

イエスの十字架上の御業のおかげで、私たちの性質は変えられました。コリント第二 **5:17** でパウロはこう語ります。「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」イエスを信じて信仰するなら、私たちは新しく造られた者になります。新しい希望をもって生まれ変わり、神の子とされるのです。

神から与えられる希望は、イエスの復活によって確かなものとなりました。イエスは天を離れて地上に来られましたが、十字架上で死ぬことだけでなく、復活することも目的としておられました。ご自身の死と復活によって、死と罪に打ち勝つために来られたのです。復活がなければ、救いの希望はありません。**3** 節には、「**イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちが新しく生まれさせて、生ける望みを持つようにしてくださいました。**」とあります。

イエスが十字架上で死なただけなら、私たちは救われません。私たちが無罪とされるためには、イエスはよみがえらなければならなかったのです。イエスの復活が死を打ち負かし、それによって私たちが新しい命へと生まれ変わることができたのです。聖書の教える希望は、確かなものです。イエス・キリストを基としたものなので、間違いや失敗はあり得ません。

ふたつめの特徴はこれです。

2. 聖書の教える希望は、確かな資産を受け継がせてくれる。

すべての必要を満たしてくれるような資産を受け継ぐという事実を知りたいと思いますか。皆さんに良い知らせがあります。今日ここにいる皆さん、クリスチャンならあなたには資産が用意されています。今日の聖書個所の **4** 節にはこうあります。「また、朽ちることも汚れることも、消えて行くこともない資産を受け継ぐようにしてくださいました。これはあなたがたのために、天にたくわえられているのです。」この個所と **3** 節を合わせると、私たちは生まれ変わって、朽ちることも消えることもない資産を受け継ぐようになったというわけです。

受け継ぐ資産は、自分で稼ぐことはできません。通常は、家族の誰かからもらうものです。受ける側の人間は、受け取るために何もすることはありませんが、与える側の人にはしなければならぬことがあります。残念ながら、私たちが資産を受け継ぐためには、誰かが死ななければなりません。この場合、イエスの死が、私たちに資産を与えてくれました。

ペテロが語る資産は、この世の資産ではありません。ここで語られる資産は、この世のどんな資産より偉大なものです。この世の資産は永遠に続くことはありません。いつか消えてしまいます。少し例を挙げて説明してみましょう。私の祖父が数年前に亡くなりました。祖父は裕福ではありませんでしたが、孫たちにいくらか形見を残してくれました。孫の中で男の子は私一人だったので、私は祖父のポケットナイフをもらいました。祖父はこのポケットナイフを肌身離さず持っていました。祖父に会いに行くといつもポケットナイフもそこにありました。ですから、祖父がポケットナイフを私に残したいと願っていたことを父と叔父たちから聞いて、私は驚きと同時に光栄に感じました。それほど特別なポケットナイフだったにもかかわらず、今それがどこにあるかまったくわかりません。いつかどこかで無くしてしまったようです。祖父が私に残してくれた資産は消えてなくなりました。

お金を相続する人もいますが、人は相続したお金でさまざまな失敗をします。このメッセージを準備していた時に、ある若い男性の話を読みました。この男性は **18 歳で 10 万ドル**（約一千万円）を相続しました。そのお金をどうしてよいのかわからなかった彼は、お金を使い始めました。何か気に入ったものがあれば買いました。将来のことは何も考えず、湯水のごとく散財しました。すると、**3 年**足らずで全額使い果たしました。遺産があったことを示すのは、山のような請求書だけです。

この世の資産とは違って、神が約束してくださる資産は永続します。神が与えてくださる資産は確かなものです。私が祖父の形見をなくしたように、失ったりなくなったりしません。また物を手に入れるために無駄遣いすることはありません。朽ちたり腐ったりすることはありません。神からの資産は汚されることありません。この資産はお金のように消えることありません。

この世の資産を受けるとい保証はありません。遺産を相続する前に、本人が使い果たしてしまうこともあります。一方、神からの資産は保証されています。**4 節**には、私たちの資産は「あなたがたのために、天にたくわえられているのです。」と語ります。神は、私たちの資産をしっかりと保ってくださいています。私たちは、そのことを信頼できます。

私たちの資産とは救いです。**5 節**をもう一度読んでみましょう。「あなたがたは、信仰により、神の御力によって守られており、終わりのときに現されるように用意されている救いをいただくのです。」キリストを信じる信徒にとっての資産は救いです。私たちは、キリストに信仰を置いたことで、すでに救われていますが、今はまだ資産の完成を待っている状態です。私たちの救いは、イエスの再臨で完成されます。イエスが再臨される時、私たちは新しい体をいただき、新しい天の家に入ります。こうして、資産を完全にいただくのです。

3 つめの特徴はこれです。

3. 聖書の教える希望は、どんな試練も乗り越えさせてくれる。

ヤコブ **1:2** は、「さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。」と語ります。ヤコブは、「もし試練に会ったら」とは言っていないことに注目してください。彼は「試練に会うとき」と言います。私たちクリスチャンは、楽な人生を約束されてはいません。辛いことや苦しいこと、悲しいこともあります。イエスを信じれば、辛いことから逃れられるという思い違いをしてしまうことが多々あります。もっと人生は平穏で痛み苦しみが少ないはずだと間違った考えを持ってしまいます。キリスト教をこの世の苦しみから守ってくれる透明バリアのように思うようですが、そんなことはありません。私たちが試練を経験することを、聖書ははっきり語ります。

クリスチャンも、世間が直面するのと同じ問題に立ち向かいます。家計が苦しくなることや、失業する可能性もあります。約束を破られたり、嘘をつかれたりすることもあるでしょう。子どもが良くない方向に進んでいくこともあります。病気や死とも直面します。クリスチャンも人生の試練を免れません。

では、試練に会った時、クリスチャンはどうすればよいのでしょうか。途方に暮れて「ああ悲しい、私の人生はめちゃくちゃだ」と嘆くのでしょうか。それがクリスチャンのあるべき姿でしょうか。違います。私たちは試練を「喜びと**思う**」べきなのです。ペテロ第一 **1:6** で、ペテロは同様のことを語ります。「そういうわけで、あなたがたは大いに喜んでいます。いまは、しばらく

の間、さまざまの試練の中で、悲しまなければならぬのですが、」辛いことが起こった時に嬉しそうなふりをするという意味ではありません。傷ついて苦しんでいるときに、何事もなかったように平気な顔をすることでもないと思います。私たちに必要なのは、試練に何らかの目的があるという認識です。試練さえも神のご計画の一部なのです。

「ご忍耐ください。神はまだ私を完成させていません。」という表現を聞いたことがありますか。ほとんどの場合これは、私たちに欠点があることや失敗することを忘れないでくださいと他の人をお願いする意味合いで使われます。今日はこれを違った視点から見てみたいと思います。他の人に向けてではなく、自分自身に言うてみるのです。試練に遭ったら、神が私たちを完成させていないのだから忍耐しようと自分自身に言い聞かせる必要があります。

なぜ神はまだ私たちを完成させていないのでしょうか。試練に遭う目的は何でしょう。7節はこう語ります。「あなたがたの信仰の試練は、火で精錬されつつなお朽ちて行く金よりも尊く、イエス・キリストの現れのとときに称賛と光栄と榮譽になることがわかります。」ペテロは人生の試練を金の精錬過程になぞらえます。私たちが試練に遭うのは、信仰が金のように精錬されるためです。

錬金術師が金を火にかけるのは、不純物を取り除くためです。金は純金として掘り出されるわけではありません。いろんな不純物が混ざった状態で採掘されます。不純物が混ざった状態では、高い値はつきません。それで錬金術師は金を熱して溶かします。金の精錬には約 1100℃まで熱する必要があります。金が溶けて液体になると、そこで不純物を取り除きます。試練も私たちの信仰に同じ効果をもたらします。不純物を取り除くのです。今度試練に遭ったら、少し冷静になって、神が何を教えようとしておられるのか考えてみてください。同僚と何か問題があったら、自分のどこが練られなければならないのか、神に尋ねてください。子育てでイライラしたら、何を学ぶべきなのか神に尋ねてください。試練に遭ったら、神があなたを作り変えようとしているのだと思ってください。あなたの人生そのものがイエスの称賛と榮譽となるためです。

4. まとめ

最後にまとめとして、少し短いお話をしたいと思います。

「ある日の午後、ひとりの男性がリトルリーグの試合を見かけて近づきました。ベンチで控えていた少年にスコアを聞くと彼はこう答えました。「18対0で負けています。」

男性「おやおや、がっかりだね。」

少年「どうしてがっかりなんですか。まだバッターボックスに立ってもいないのに。」

この少年は希望にあふれていました。希望で満ちていたので、点数など関係なかったのです。クリスチャンの皆さん、どうかこの少年のようになってください。聖書の教える希望、神にかける希望に満ち溢れてください。なぜそれほど希望を持っていられるのか周囲の人が聞きたくなるような生き方をしてください。そうすれば、希望の良き知らせを分かち合うことができるでしょう。

今日私がお話したような希望を持っていないという方も、ここにおられるでしょう。人生を変える希望を持つというのはすばらしいと思われたでしょうか。もしそうなら、良い知らせがあります。イエスを信じるなら、この希望はあなたのものです。

祈りましょう。